

集団自決は、なぜ日本だけで起きたのか？

「非業の生者たち—集団自決 サイパンから満洲へ」

講師：下嶋哲朗さん (1941年 生まれ、ノンフィクション作家)

日時：6月10日(月) 開会 18時30分

場所：練馬・豊玉リサイクルセンター

西武池袋線「桜台駅」徒歩5分 西武池袋線・都営大江戸線「練馬駅」徒歩10分

沖縄の平和学習で必ず訪れる場所に、読谷村のチビチリガマ(鍾乳洞)があります。1945年4月、上陸した「鬼畜」米軍に殺されるのならば、自ら生命を絶とうと、「集団自決」が起こりました。亡くなったのは、子どもを半数以上ふくむ82名で、その多くは家族・親族でした。肉親同士の殺し合い故に、この「集団自決」はタブーとなり、戦後38年のあいだ語られることはありませんでした。米軍基地の強制収容で、遺族の中には移住をせざるを得ない人もいました。下嶋さんは、1975年、石垣島で、家族6人をすべて失った一人の人間に出会い、大きな衝撃を受けました。そして、チビチリガマと沖縄戦の真実を掘り起こしていきました。その調査の結果は、「沖縄・チビチリガマの“集団自決”」(岩波ブックレット)や「チビチリガマの集団自決—「神の国」の果てに」(凱風社)などにまとめられています。そうした聞き取りの中で、その前年のサイパン、グアム、テニアン、フィリピン、そして8月以降の満洲での「集団自決」で残された遺族に聞き取りを行い、「集団自決」は日本人特有の死の形であると確信するようになります。月刊誌「世界」に連載された記事は、「非業の生者」(岩波書店)にまとめられました。「集団自決」の本質と背景を語っていただきます。ぜひご参加下さい。

資料代 500円

主催：沖縄戦を考える練馬の集い実行委員会

連絡先 柏木 090-8311-6678 練馬区職労 03-3993-5405

